

水産試験研究体制及び種苗生産体制(漁業公社)の見直しについて

1. 水産試験研究体制の現状と課題

- (1) 水産研究部(佐伯市上浦)
  - ・豊後水道の水産試験研究を所管(疾病対策は全海域)
  - ・本館老朽化(S44築)
  - ・ブリ、ヒラマサ完全養殖技術開発
- (2) 浅海チーム(豊後高田市呉崎)
  - ・瀬戸内海の水産試験研究を所管
  - ・クルマエビ、カキ養殖等の疾病対策の迅速化(現行は上浦で対応)
- (3) 内水面チーム(宇佐市安心院)
  - ・県下全域の内陸部の水産試験研究を所管
  - ・本館老朽化(S42築)
  - ・業務の中心がドジョウ等の養殖技術開発から現地での魚病診断、指導等に変化



2. 種苗生産体制(漁業公社)の現状と課題

- (1) 運営面
  - ・国東事業場の老朽化(S46築)
  - ・H24、25収支赤字になるも、マダイ等不採算魚種の生産中止等業務の見直しによりH26から黒字転換
- (2) 生産者ニーズ
  - ・生産者の要望に応じ、採算性が高い以下の魚種を生産
    - ①民間や他県でほぼ生産していない魚種(ヒラマサ、マコガレイ等)
    - ②本県への安定供給が困難な魚種(クルマエビ、ガザミ、アワビ等)
- (3) 技術面
  - ・豊後水道と瀬戸内海では水温変動や生息魚種が異なることから、国東と上浦でそれぞれの海域に適した魚種を生産

見直しの経過及び今後のスケジュール

■ 検討委員会

外部有識者による水産研究施設等総合検討委員会(県漁協、河川漁協、市、研究機関等関係者で構成)をこれまでに4回開催し、現状と課題、生産現場の要望等について説明して委員の意見を聴取

■ 検討委員からの主な意見

- ・水産業の発展に向け、体制の強化が必要
- ・施設の改築には優先順位が重要
- ・見直しにあたっては選択と集中の観点が必要
- ・ニーズの変化を踏まえたうえで、生産者のためになる見直しが必要

- (1) 水産研究部(佐伯市上浦)
  - ・赤潮対策、疾病対策において重要な役割
  - ・隣接する国の研究機関との連携が重要
- (2) 浅海チーム(豊後高田市呉崎)
  - ・豊前海の水産資源の回復に必要
  - ・ヒジキの増殖において重要な役割

- (3) 内水面チーム(宇佐市安心院)
  - ・地域特産種についての研究の継続が必要
  - ・疾病対策の迅速化が必要

- (4) 漁業公社(国東事業場、上浦事業場)
  - ・種苗放流は重要であり、高品質な種苗を生産できる施設が必要
  - ・魚種に応じ異なる水温等の条件に適した場所での生産が必要

■ 今後のスケジュール

検討委員会、行財政改革推進委員会等での協議を経て平成29年度中に方針決定

機関	整備年度	見直し選択肢
水産研究部(佐伯市上浦)	S44	①維持 ②移設  ※維持の場合、老朽化施設は改築が必要 移設の場合は、土地の確保と新たな施設整備が必要
浅海チーム(豊後高田市呉崎)	H17	
内水面チーム(宇佐市安心院)	S42	
漁業公社国東事業場	S46	
漁業公社上浦事業場	H10	